

マレーシアの教員養成における 美術教育調査 (2000年)

福田 隆真・佐々木 幸*

On the Research of Art Education in Maktab Perguruan, Malaysia(2000)

FUKUDA Takamasa and SASAKI Tsukasa*

キーワード ; マレーシア、教員養成、美術教育、シラバス

はじめに

- 1 Maktab Perguruan Gaya
- 2 Maktab Perguruan Batu Lintang
- 3 Maktab Perguruan Perempuan Melayu
- 4 Maktab Perguruan Temenggong Ibrahim
- 5 まとめ

はじめに

マレーシアにおける美術教育カリキュラム調査の一環として、本年度は初等教育教員養成を行っている教員養成学院(Maktab Perguruan)の調査を実施した。(注1) 本年8、9月において、筆者はコタ・キナバル、クチン、マラッカ、ジョホール・バルの4つの教員養成学院を訪問し、カリキュラムと教育実践について調査を行った。(注2)

マレーシアには現在、教員養成学院は27校設置されており、その全ては教育省の教員養成部局(Kementerian Pendidikan, Bahagian Pendidikan Guru)で統括されている。教員養成学院の目的は大きく3つあり、一つめはプレ・サービス(pre-service)の3年間でのディプロマコースで、いわゆる学生を教員として育成するコースである。2つめは、KPLI(Kursus Perguruan Lapisan Ijazah)と言われるもので、他の教員養成機関ではない大学、学部を卒業した者に対して、1年間で教員の資格を授与するコースである。さらに3つめとして、イン・サービス(in-service)の地域の現職教員の研修・再教育が使命の一つとなっている。近年は特に情報教育の普及のためにコンピューターの教育が盛んに行われている。また、教員の質的向上のために、資格の向上のための講習会も実施されている。こうした使命からも、教員養成学院が全国の地域に分散して設置されている意義は大きいといえる。

教員養成学院の一つめの使命であるディプロマコースのカリキュラムは全国统一カリキュ

*北海道教育大学釧路校

ラムで授業が実施されている。教員養成のシラバスについては既にその内容の一部を報告している。(注3)シラバスが統一されて、教材もほとんど同一の内容が各教員養成学院で実施されてはいるが、地域の特色あるいは教育スタッフの相違により、美術教育の実践においても特色を持っている。初等教育の教員養成として必要な美術教育の基礎的・基本的内容と地域やスタッフの特色を調査することも本稿の目的である。

マレーシアにおける教員の需給に関しては完全に計画養成のシステムを採用しており、教員養成学院への入学に関しても、全国を受験生を教員養成部局が面接・判定をし、国内の27の教員養成学院に配属させるという制度をとっている。さらに教員への就職においても学生は全国のいずれかに配置されるため、教員としての資質を平均的に修得させることが重要となっている。従って、美術教育においても地域の特色だけを重視するのではなく、基礎的・基本的内容を十分に修得させることが重要な目的となっている。

1 Maktab Perguruan Gaya

ガヤ教員養成学院(Maktab Perguruan Gaya、以下はMPGとする)は東マレーシア、コタ・キナバルに設置された教員養成機関である。(注4)MPGはコタ・キナバルの市街地にあり、小高い丘にキャンパスを構えている。その歴史は1963年7月4日に州知事のウィリアム・グード(Sir William Goode)によって創立されたものである。市街地から2kmのところには19.4ヘクタールの敷地を擁している。1963年から1981年まではサバ州の教育局の基におかれ、1981年以降は教育省の教員養成局に属している。

1981年以降の7つの学部(Jabatan)から改組を経て、現在、以下の組織が設置されている。

- 1 社会研究
- 2 数学
- 3 教育学
- 4 体育・健康教育
- 5 科学
- 6 言語
- 7 マレー語
- 8 教育技術
- 9 イスラム教・道徳教育

そしてMPGの教育活動としては、現在、以下のような内容を実施している。(注5)

- 1 ディプロマコース(DPM:Kursus Diploma Pendidikan Malaysia)
3年間の小学校教員の養成。数学、科学、マレー語、英語、中国語、家政科、イスラム研究、芸術と体育教育が提供されている。
- 2 学士修了教員養成コース(KPLI:Kursusu Perguruan Lepasn Ijazah)
学士を取得しているものが1年間で中等教育の教員免許を取得する。数学、科学、マレー語、TESL(Teaching of English as Second Language)、地理・歴史が提供されている。
- 3 ディプロマ修了教員養成コース(KPLD:Kursus Perguruan Lepasn Diploma)

中等教育の教員でディプロマ取得者が1年で教員免許を取得する。数学、科学が提供されている。

4 休暇期コース(KDC:Kursus Dalam Cuti)

初等教育教員を対象とした休暇中の研修。数学、科学、マレー語、英語、中国語、家政科、イスラム研究が提供されている。

5 14週サービスコース(Kursus Dalam Perkhidmatan 14 Minggu)

特定分野における現職教員の研修で、教育におけるコンピューター、指導とカウンセリング、TESL、スマートスクール教員研修が提供されている。

6 特別サービスコース(KDPK:Kursus dalam Perkhidmatan Khas)

特定分野で、国内外の学士のコースのプログラムを継続するための研修で、マレー語、TESL、家政科が提供されている。

7 学士教員特別コース(PKPG:Program Khas Pensiswazahan Guru)

1999年から開始されたプログラムで、マレーシア・サバ大学の卒業生を受け入れ、教員免許を取得するコースで、TESLと数学が提供されている。

8 PKPG14週サービスコース(Kursus Dalam Perkhidmatan 14 Minggu Persediaan PKPG)

PKPGの受講者で、情報技術とTESLの分野で14週間のコースのプログラム。

9 資格取得教員養成特別コース(KSPK:Kursus Sijil Perguruan Khas)

情報技術、家政科、体育・健康の教科において1年間の教員養成コース。

さらに基礎教育コースとして、中等教育研究(Pengajian Sekolah Menengah)と初等教育研究(Pengajian Sekolah Rendah)があり、中等教育研究には、マレー美術教育研究、家政科、マレー歴史・地理・マレー文学が設置されている。初等教育研究では、マレー研究、英語研究、中国研究、イスラム教研究、数学研究、数理科学研究、農業研究が置かれている。

また、現職教員の研修としては、「環境と人間」「合科授業論」「教職としての学問」「手作業」「生活技能」が開講されている。

また、美術教育の内容からは離れるが、教員研修として、教育技術部門の教員によって、情報教育の研修が行われている。調査時にはスマート・スクール(注6)の教員を対象にして、アプリケーションの使用方法、教材作成を内容とした研修が実施されていた。(図1)

MPGでの美術教育は2名の教官が担当している。ロスマワティ(Rosmawati bt. Hamzah)氏という女性と、ファウジ(Muhamed Fauzi b. Hj Alwee)氏という男性教官である。マレーシアの教員養成学院ではいずれにおいても美術教育のコースが設置されているが、教官スタッフの定員には相違があり、例えばクアラルンプルの特別教員養成学院(Maktab Perguruan Ilum Khas)では5名、マラッカの女子教員養成学院(Maktab Perguruan Perempuan Melayu)では4名の規模である。教官規模はそれぞれの学院の内部措置、学生数などで設置されている。

美術教育の施設は実技と講義が実施できる工房と資料室からなっている。工房は40名くらい収容できるもので、平面、立体のいずれの作業もそこで行っている。資料室には伝統的工芸、デザインの作品、授業のフォリオ(注7)などが収容されており、授業の参考資料として活用されている。

ロスマワティ氏は美術教育についてのカリキュラムと実践については以下のように述べられた。

MPG は初等教育の教員養成を行っており、在学期間も従来の2年半から3年になり、6セメスターとなっている。授業内容はマレーシアの統一シラバスに従って行われている。1999年にシラバスの一部が改訂されて、初等教育教員養成において美術教育が重視され、必修化された。(注8) このシラバスによると、セメスター2で「知覚と審美観」「美術制作1：描画、絵画」、セメスター3で、「鑑賞と美術批評その1」「美術制作2：模様、グラフィック」、セメスター4で、「鑑賞と美術批評その2」「美術制作その3：構成と工作：人形、お面、ワヤン・クリ、展示」の授業が導入された。このことは教育省での新たな方針に基づくものである。(注9)

美術教育の専攻の学生に対しては以下のような授業が提供されている。(注10)

・セメスター1

「知覚と審美観」「描画1」「美術史1：西洋美術史」「美術教育原論：マレーシアの美術教育」「美術制作1」

・セメスター2

「描画2」「美術史2：マレーシアの視覚芸術」「美術教育原論2：美術教育思潮」「美術制作2」「美術教育授業論1」

・セメスター3

「美術史3：東洋美術」「美術教育原論3：美術教育心理」「美術制作3」「美術教育授業論2」

・セメスター4

「美術制作4」

・セメスター5

「美術教育授業論3」「鑑賞と美術批評」

このようなカリキュラムで美術教育が実施されている。以下では授業の一環としての作品についてその一部を紹介する。

図2はインテリアデザインの授業の作品である。学校環境の整備のためにも美術教育の授業として学習されている。図3は織物の作品で伝統的で実用的な教材を実践している。図4では伝統的なマレーシアの工芸作品で、資料としても有効に利用されている。図5はロスマワティ氏によるフォリオの説明である。各授業ごとに学習のまとめとしてフォリオが課されている。図6は資料室の一部である。絵画、工作・工芸の作品が展示してあり参考資料となっている。図7、10はバティックの制作の一部であり、染料の代わりに顔料による模倣作品がグループで制作されている。図8、9は木彫作品で、伝統的な工芸文化の体験的修得を行っている。

2 Maktab Perguruan Batu Lintang

バトゥ・リントン教員養成学院(Maktab Perguruan Batu Lintang：以下はMPBLとする)は東マレーシア、サラワク州の州都クチンの市街地にある。(注11) 設立は1948年で、マレーシア国内ではスルタン・イドゥリス教育大学に次いで歴史の古い教員養成学校

である。現在、約97名の教官と900名の学生が在籍している。

MPBLの調査では、美術教育ユニットのミカエル(Michael Nelson; Ketua Unit Pendidikan Seni)氏に取材し、以下のような内容の説明を受けた。(注12)

MPBLの教育目的は3つあり、一つは3年制のディプロマ・コース、2つめは大学卒業生の教員免許取得のための1年制コース(KPLI:Kurus Perguruan Lapasan Ijazah)、そして3つめはイン・サービスと言われる現職教員の再教育・研修である。ディプロマ・コースの学生は初等教育教員養成を行っており、現在、美術教育の学生は約30名で、ほとんど女子学生である。シラバスは教育省が作成し、それに従って授業が行われている。シラバスは全国統一であるが、文化の相違により、同一の教材であっても表現が多少違ってくる。

美術教育の教官はミカエル氏一人であり、全ての授業を一人で行っている。授業科目については全国統一のため、前述のMPGと同じ内容である。

以下は、MPBLでの美術教育の実践の一部である。図11、12は基礎造形の作品の一部である。スタンプング、ユニットなどの視覚言語による造形表現であり、いずれの教員養成学院においても基礎的な表現技法の修得として実践されている。図13、14は絵画的な表現による作品で、テーマを決めて様々な表現方法を体験的に修得するものである。図15はイン・サービスのための授業の準備で、表現技法の解説のためのパネル表示を行っている。図16、17、18、19は彫刻、工芸の作品である。小学校教員として修得すべき表現技法と分野の学習が行われている。いずれも小品ではあるが、一人の学生が全ての分野の表現技法を修得することに教員養成としての意義がある。また、現在、MPBLではミカエル氏が一人で全ての美術の授業を行っているので、教材の専門性よりもむしろ教材の構成や表現分野の多様性を修得させ、それぞれの教材についてフォリオを課することによって、研究的な方法で美術教育を行っていると考えられる。

3 Maktab Perguruan Perempuan Melayu (注13)

ムラユ女子教員養成学院(Maktab Perguruan Perempuan Melayu : 以下はMPPMと記す)は、半島マレーシア西海岸の古都、マラッカにある。マラッカは、マラッカ州の州都であり、マレー半島とスマトラ島の間のマラッカ海峡が海上交通の要衝であったこともあり、ポルトガル、オランダ、英国の植民地政策の重要拠点となっていた都市でもある。

MPPMは、マレーシア各地にある教員養成学院の中で唯一の女子教員養成学院である。創立は1935年であり、伝統を持った女子師範学校である。

美術教育の組織は、他の教員養成学院と同様に、社会科学(Jabatan Kajian Sosial)に属している。社会科学は、社会学ユニット、美術教育ユニット、音楽教育ユニットから構成されている。

2000年度には、美術教育の主専攻(メジャー)は設置されておらず、副専攻(マイナー)としての美術教育が6クラス開講されている。具体的には、主専攻が英語で副専攻が美術(英語/美術と表記する。以下同様)が Semester 1 に2クラス、Semester 2 に2クラス、Semester 4 に1クラスの合計5クラス、理科/美術が Semester 5 に1クラス開講されている。

マレーシア国内の教員養成学院における主専攻と副専攻の組み合わせによる開設は、全て教育省の統制下にあり、教員の計画養成数と希望学生数及び受け入れ体制の状況を勘案して年度ごとに決定される。2000年度に関しては、MPPMでの美術主専攻は設置されていない。

ただし、初等学校教員養成の新しいシラバスによって、1週1単位時間の美術教育は必修化されているので、MPPMにおけるその他のクラス（理科／家庭科、英語／保健体育、理科／数学、理科／国語、英語／数学）においても、美術教育は履修される。

MPPMの美術教育は、ヤシン(Hj. Mhod Yasin Ahamad)氏が担当している。ヤシン氏によると、美術教育の授業内容は、理論と実技に大きく分かれ、それぞれ講義と演習(実技)という形式で行っているという。理論に関しては特別な教科書を用いず、テーマに即して参考図書を用いながら指導を行っている。実技に関しては、テーマを指示した後、学生の活動を個別に指導し、最終的にポートフォリオを提出させている。ポートフォリオは、MPPMに限らず他の教員養成学院においても学生指導に用いられている。MPPMでのポートフォリオは、1 Semesterにつき、1 フォリオの作成・提出となっている。

ポートフォリオの内容は、提示されたテーマについてのレポート、資料、作品制作のプロセスや材料、技法などの記述によって構成されており、かつ視覚的に美しく作成されている。したがって、単なる作品制作だけではなく、テーマについての調査活動やレポート作成が必要になり、学生の自主的な活動が前提となっている。この点について、ヤシン氏は、「かつては教師中心型の授業形式であったが、現在は学生中心型の授業形式に切り替えて行っており、個別の学生とのディスカッションを通して進めている。また、学生の中には、美術を得意としない学生もいるが、初等学校の教員として必要な事柄は身につけさせる方針である」と述べている(注14)。

実技の授業で扱う内容(テーマ)に関しては、初等学校での美術教育指導のための能力育成に特化しており、初等学校における美術教育の内容を基盤としている。例えば、油彩画などは、初等学校の内容には含まれていないため、MPPMでは行われていない。

学生作品を概観すると、水彩画、パティック、彫刻、陶芸、アニヤマンなどが主なものであった。これらは、他の教員養成学院でも同様に見受けられたものであり、また初等学校の美術教育の題材でもある。

なお、MPPMでは、他の教員養成学院同様に14週間の現職教員の研修プログラム(KPLI)も行われている。ヤシン氏によると、地方の初等学校の平均的な1学級当たりの児童数は25~30人程度で、教員3人で2学級の指導を担当するのが一般的であるため、現職教員の研修プログラムが成り立つという。現職教員の研修プログラムは、現役学生のプログラムとは別のシラバス・カリキュラムが設定されている。

以下はMPPMでの美術教育の作品制作の一部である。図20はパティック作品で、具象的な模様だけでなく幾何学的な模様を採り入れている。図21は色紙を重ねてパターンを切り、レリーフ状にしたものである。パターン、色彩、構図の基礎的な学習のための教材である。図22はアニヤマン等の工芸的な作品である。図23は現職教員による彫刻作品である。中等教育の現職教員なので表現を重視した作品制作を行っている。図24は教室風景である。参考作品を常時掲示して授業の資料としている。図25はクランタン州の伝統的工芸の凧である。実際には凧として使用できないそうであるが、色彩と形態、模様の修得のための教材である。図26、27はフォリオの一部である。図28はパティック作品で参考資料として利

用されている。図29はテクスチャによる表現の参考作品である。図30は籐による工芸作品を装飾的に扱った作品である。

4 Maktab Perguruan Temenggong Ibrahim (注15)

テメンゴン・イブラヒム教員養成学院(Maktab Perguruan Temenggong Ibrahim : 以下MPTIと記す)は、マレー半島南端の都市、ジョホール・バルの郊外にある。ジョホール・バルは、ジョホール州の州都であり、マレー半島の最南端に位置し、シンガポールとの国境となっている。

ジョホール州には、MPTI以外にも教員養成学院があったが、MPTIに現在は統合されている。教官数は約150人、学生数は約600人となっている。MPTIにおいても、教員養成ディプロマコース、学士号保持者のためのコース(KPLI)、現職教員の研修コース(PKPG)の3コースが設置されている。また、それぞれのカリキュラム・シラバスは、国内共通のものが適用されているので、教育内容には変わりはない。

MPTIにおける美術教育ユニットは、やはり他の教員養成学院と同様に、社会学科の中に組織されている。美術教育ユニットは、ナフィサ(Nafisah bte Othman)氏、バハルディン(Baharudin bin Bador)氏、ラザリ(Razali bin Kadir)氏、ユソフ(Wasdi Mohd Yusof)氏、ジョノ(Tomadi bin Jono)氏の5人の教官によって構成されている。中でも、ナフィサ氏は日本留学の経験があり、日本及びマレーシアの美術教育事情に詳しい。(注16)

学生の作品には、油彩、版画、ジオラマ(環境デザイン)、金属打ち出し(レリーフ)、パティック、アニヤマン、平面構成、立体構成、水彩画などの他、指導過程や道具の使用法を解説した掛け図などが見られた。作品の質は高いものがあり、指導を受けて制作を進めた痕跡が認められた。油彩画は、自己表現としての作品よりも、印象派および後期印派の作品の模写を中心としていた。この点は、他の教員養成学院にはない特徴であり、この点についてナフィサ氏は、「マレーシアでは、初等学校の美術教育の内容に油彩画含まれないために、教員養成学院では必ずしも学生に油彩を指導しなければならないわけではないが、学生の創造性や美術の表現に関する学習のためには、油彩もしくはアクリルによる模写は有効である。」と述べている。

ナフィサ氏およびバハルディン氏との面談では、美術教育の学習や表現の理解が教員にとって非常に重要な要素であるという見解が示された。1999年からの新しいシラバスによって設定された美術教育の必修科目について、バハルディン氏は、それでも不十分であると主張する。こうした教官の意識は、学生作品の質に反映されており、いずれの領域においてもレベルの高い作品が多く認められた。

また、教官の意識とともに、美術教育の教官が5人配置されているため、それぞれの専門性を生かした高度な指導が可能になっている。これらの教官は、マラ工科大学、マレーシア科学大学などの美術学部出身者が多く、美術の各領域における専門教育を受けている。しかし、教官自身の専門分野と、教員養成学院における指導内容が必ずしも一致するとは限らないため、初等学校教員養成として必要な資質形成を模索しつつ指導に当たっているという。

各題材の最終レポートであるフォリオは、MPTIにおいても学生に課されており、いく

つかのフォルリオを概観したが、その内容や体裁は非常に優れたものであった。また、フォルリオを完成させるまでの過程における教官の指導が明瞭に記録されており、密度の高い指導を示していた。

以下はMPTIの美術教育の実践の一部である。図31はバティック作品である。この学院にはバティックの専門の教官が授業を行っているので、レベルの高い作品が制作されている。図32は環境デザインの作品の一部である。半期で一つの作品を制作するので密度の高いものも行われている。図33は基礎造形の一部で立体構成の作品である。視覚言語を基本として制作されるものである。図34は版画であるが、内容として西洋、東洋、アジアなどの特色を生かしたモチーフによって指導が行われている。図35は印象派の作品の模写による学習で、ゴッホの作品が取りあげられていた。図36はフォルリオの表紙である。ナフィサ氏とバハルディン氏はフォルリオについて丁寧な解説を行ってくれた。(図37、38)

5 まとめ

以上、本稿ではマレーシアの4つの教員養成学院の実践を見てきた。前回の調査も含めて、マレーシアにおける教員養成のシラバスと主な教育実践を調査してきた。これらのことから、次のようなことが結論として得ることができた。

一つは、マレーシアの教員養成が基礎学力を重視し、全国的なレベルで基礎教育の充実を図っていることである。教員の計画養成という制度のもとに、全国統一のシラバス、カリキュラム、授業科目などの実態に触れると、基礎学力の重視という意図を肌で感じることができる。そして、美術教育も知識や技術・技能の修得によって創造的表現に高めようとする方法をとっていることである。そして、全国統一のシラバスで教員養成を実施することによって、社会状況の変化に対応することが容易であるということである。特に、近年のカリキュラムの改訂については、急速な社会の変化に全国的に対応しているように見受けられる。

次に、教員養成学院のもっている社会的使命の重要性である。いずれにおいても大きく3つの使命を持ち、学生の教育、他学部出身者への免許取得のため教育、現職教員の研修という教員の資質向上の目的がいずれにも存在している。特に、情報技術の研修などは対応が早く、学校教育と社会の変化と教員養成の有効な連携を実施している。そして、マレーシア全土に教員養成学院が分散して存在することによって、より緊密な教員の資質向上が実践されている。

美術教育においては、前述のようにバランスのとれた人間形成のための7つの資質を取りあげているように、いずれの教科も人間形成として重要な役割をもっていることを認識して、教員養成を行っている。特に初等教育の教員養成においては、教科が突出することなく、全ての教科がバランスのとれた人間形成を目指しているということである。また、教員養成が研究的な方法によって行われていることも、特徴の一つである。美術教育では、理論と実践をどの様に連携するかが一つの問題であるが、美術教育の理論的教授を基盤に美術表現の分野において、研究的に表現を行うことで、教材としての意義を認識させている。フォルリオの作成がその例である。テーマの設定、資料収集、表現の分析、アイデアの創出、スケッチ作成、完成予想図作成、制作、評価といった一連の研究方法によって、単

発的に作品制作を行うのではなく、教材研究を踏まえて表現すると言うことが、教員養成としての教科専門の内容を明確にしているのである。

また、美術教育の内容として、伝統的美術文化を保存・継承のために、特に、伝統的工芸の紹介、実践が重視されている。マレー文化に基づく伝統的工芸を知的方法や実習において教材化することで目的を実践している。自国の文化の継承、創造という大きな目的の一つを美術教育も担っているのである。

また、いずれの教科においても教育実習の重視が成されていることも特徴の一つである。シラバスでは、 Semester 6 において全てを教育実習に充当している。15週間の実習である。教育実践力の重視は我が国でも求められ、先の教員免許法の改訂によって、教育実習や体験的学習が重視されてきてはいるが、我が国では免許取得の開放性が採られているので、教員免許を取得することと教員養成が必ずしも一致している状況や結果を得てはいない。マレーシアにおいては計画養成であるから、教員としての実践力も教員養成学院に求められているのである。そのことは、教員としての自覚や資質形成に繋がっていると考えられる。

付記

本稿を作成するに当たり、はじめに、1、2、5を福田が、3、4を佐々木が担当し、全体を福田がまとめた。

注

- 1 本研究は平成10～12年度、文部省科学研究費補助金、基盤B 海外学術調査（研究課題；東南アジアにおける美術教育カリキュラム基礎研究、研究代表者；福田隆眞、課題番号；国10041075）の一環として実施した調査の報告の一部である。
- 2 本稿における調査は2000年8月、9月に実施したものである。
- 3 佐々木幸、中矢礼美、福田隆眞 「マレーシアにおける美術教育教員養成シラバスについて（資料）」 北海道教育大学紀要（教育科学編）第50巻第1号 平成11年8月 pp.257-268
- 4 Maktab Perguruan Gaya, Peti Surat 10491, 88805, Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia, Tel 088-210979, Fax 088-218366
<http://www.sabah.edu.my/mpg/>, e-mail mpgaya@tm.net
- 5 前掲4に同じ。
- 6 スマート・スクールは能力の高い生徒の学校で、1999年に政府が全国の初等・中等学校の333の学校にコンピューターを設置し、数学、科学、語学の試験制度を改善するために試みられている教育内容の検討の一つである。Dr.S.C.Ng TERTIARY EDUCATION OPPORTUNITIES IN MALAYSIA, MAKE AN INFORMED CHOICE, Macromer Sdn.Bhd. 2000, p1 参照。
- 7 フォリオは実習の各授業で規定されているレポートのようなもので、テーマ、材料、技法、参考作品、アイデアスケッチ、バリエーション、完成予想図、制作過程、完成作品、作品の自己評価などをまとめた冊子である。Semesterの期間に授業ごとに作成する。

- 8 SUKATAN PELAJARAN DIPLOMA PERGURUAN MALAYSIA PENDIDIKAN SENI(PENYUBURAN DIRI), BAHAGIAN PENDIDIKAN GURU KEMENTERIAN PENDIDIKAN MALAYSIA, JULAI 1999
- 9 教育省のカリキュラム開発センターのカリキュラム・ディレクター、ザイディ氏 (Zaidi Abdul Hamid)によると、初等教育において、美術教育も人間形成の全体的観点から重要であり、7つに資質の中に組み込まれているとの説明を受けた。7つの資質とは、言語的資質、論理的資質、空間的資質、聴覚的資質、運動的資質、自立的資質、人間関係的資質の7つである。(2000年9月の面談・調査およびザイディ氏からの資料による。)
- 10 SUKATAN PELAJARAN DIPLOMA PERGURUAN MALAYSIA PENGAJIAN PENDIDIKAN SENI(MINOR), BAHAGIAN PENDIDIKAN GURU KEMENTERIAN PENDIDIKAN MALAYSIA, 1998
- 11 Maktab Perguruan Batu Lintang, 93250, Kuching , Sarawak, Malaysia
Tel 082-243501, Fax 082-252326
<http://www.geocities.com/Athens/Academy/5578>
- 12 2000年9月の調査による。ミカエル氏からは次の資料提供を受けた。
EDUCATION SYLLABUS MALAYSIAN TEACHING DIPLOMA, ART(MINOR),
TEACHER EDUCATION DIVISION, MINISTRY OF EDUCATION MALAYSIA,
SEPTEMBER 1999
- 13 Maktab Pendidikan Perempuan Melayu, Durian Daun, 75990 Mekala, Malaysia
tel 06-2824827, fax 06-2847710, homepage URL: <http://202.186.25.3>、2000年9月6日取材。
- 14 2000年9月6日の面談取材による。
- 15 Maktab Perguruan Temenggong Ibrahim, Jalan Larkin 80350, Johor Bahru, Johor, Malaysia. 2000年9月8日取材。
- 16 日本留学時の研究論文の提供を受けた。以下に示す。
Nafisah Bt Othman, 'A Survey on An Art Education Curriculum for Lower Secondary School in Japan', A Report submitted to Okayama University Japan, In Partial Fulfilment of the Requirement for the Certificate In-Service Program for Foreign Teachers, October 1987-March 1989.
Nafisah Binti Othman, 'Malaysian Art Education Curriculum for Secondary School'. (私家版)

参考文献

- ・学校案内 MAKTAB PERGURUAN GAYA

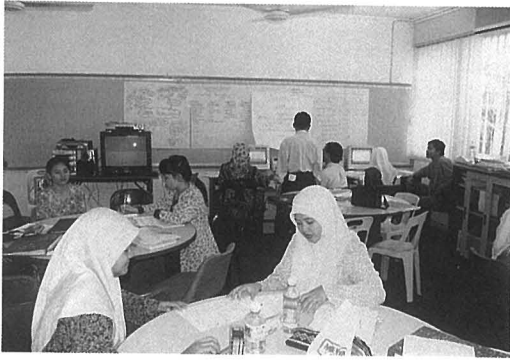


図1 情報教育研修(MPG)



図2 インテリアデザイン作品(MPG)



図3 織物作品(MPG)



図4 伝統的工芸作品(MPG)



図5 ロスマワティ氏による説明(MPG)



図6 資料室(MPG)



図7 バティック授業(MPG)



図8 木彫作品(MPG)



図9 木彫作品(MPG)



図10 バティック授業(MPG)

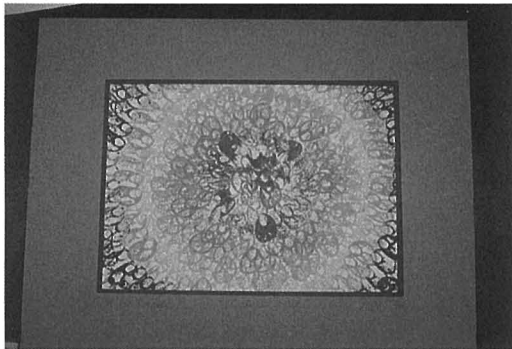


図11 基礎造形作品(MPBL)

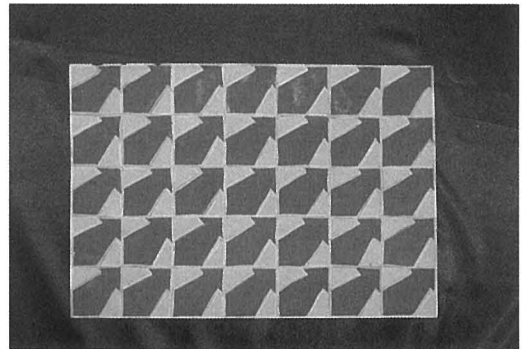


図12 基礎造形作品(MPBL)

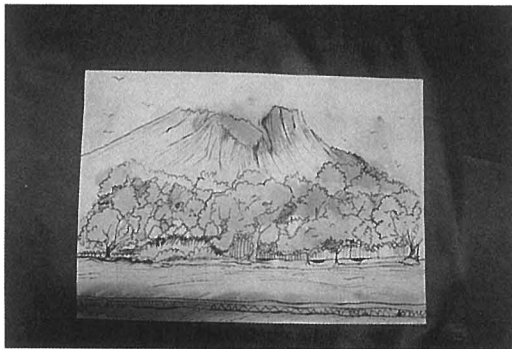


図13 水彩画(MPBL)

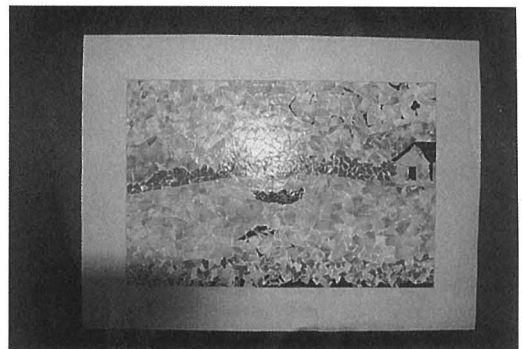


図14 コラージュ作品(MPBL)



図15 表現技法の解説(MPBL)



図16 立体作品(MPBL)



図17 立体作品(MPBL)

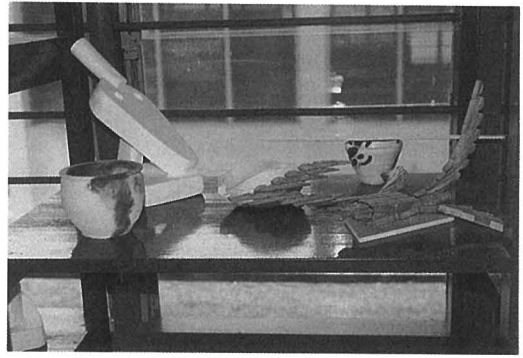


図18 立体作品(MPBL)

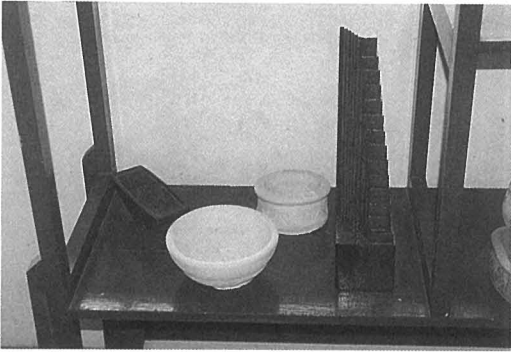


図19 立体作品(MPBL)

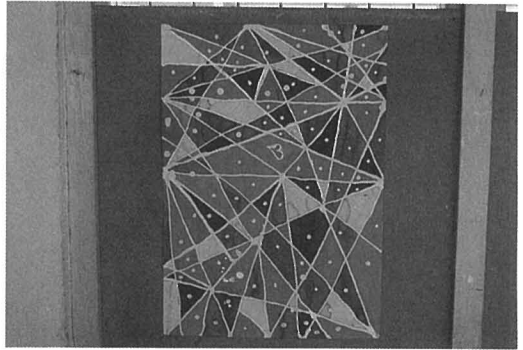


図20 バティック作品(MPPM)

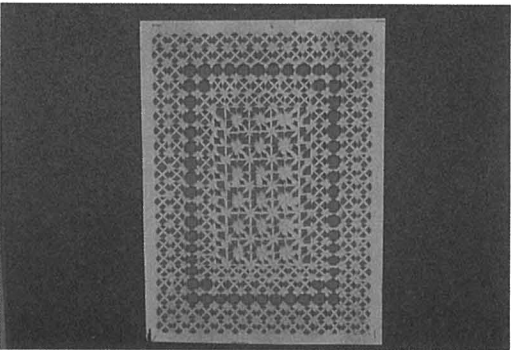


図21 レリーフ作品(MPPM)



図22 工芸作品(MPPM)



図23 彫刻作品(MPPM)



図24 教室風景(MPPM)



図25 凧(MPPM)



図26 フォリオ(MPPM)

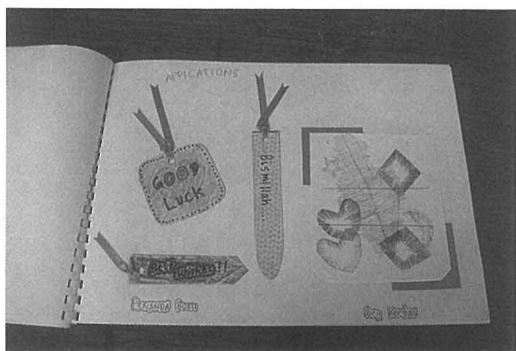


図27 フォリオ(MPPM)



図28 バティック作品(MPPM)

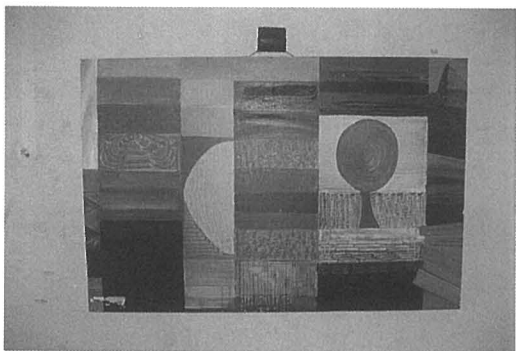


図29 テクスチャ表現(MPPM)

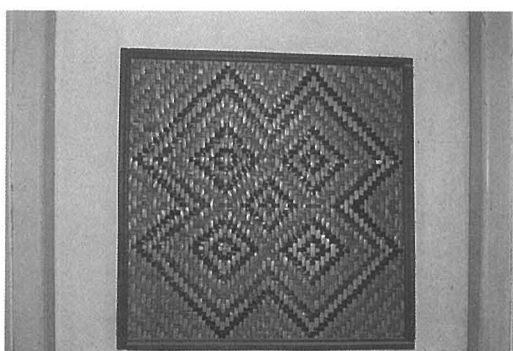


図30 籐による作品(MPPM)

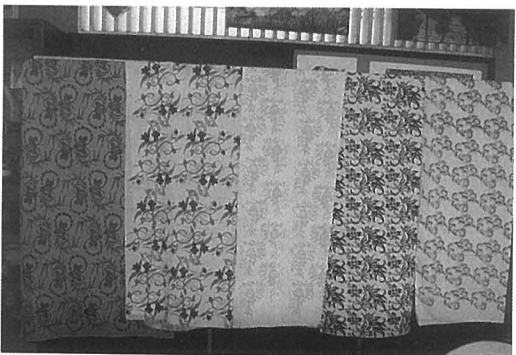


図31 バティック作品(MPTI)



図32 インテリアデザイン作品(MPTI)

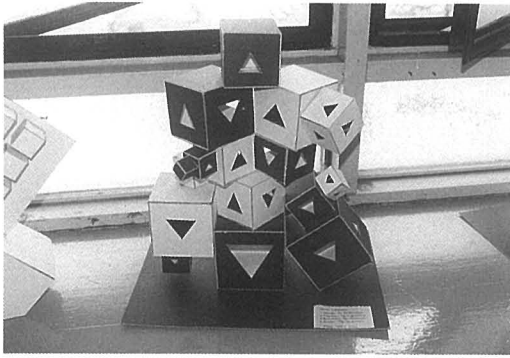


図33 立体構成作品(MPTI)



図34 版画(MPTI)

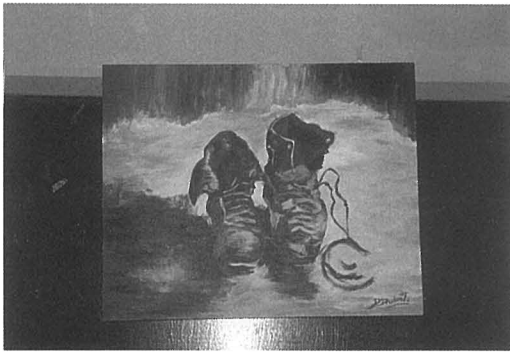


図35 油彩模写(MPTI)

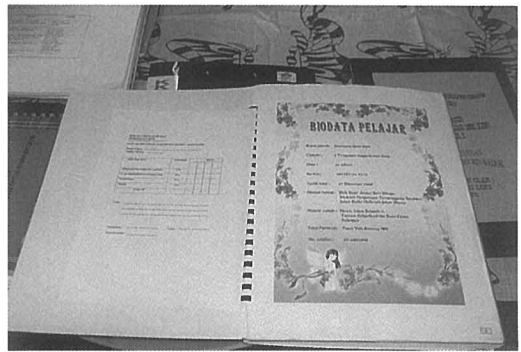


図36 フォリオ(MPTI)



図37 ナフィサ氏による説明(MPTI)



図38 ナフィサ氏、バルルディン氏(MPTI)